

日米、首脳会談を調整

オバマ氏再選うけ 同盟深化狙う

日米両政府はオバマ大統領の再選を踏まえ、20日開かれる東アジアサミットの際に首脳会談を開催する調整に入った。野田佳彦首相としては尖閣諸島（沖縄県石垣市）の国有化で日中関係が悪化するなか、日米同盟の意義を再確認する場にしたい考えだ。

首相は8日の衆院本会議で「日米同盟は我が國の外交・安全保障の基軸であり、東アジアの安全保障環境が厳しさを増すなか、重要性は増している。引き続きオバマ大統領との間で日米同盟を発展させていく」と強調し、同盟関係の深化を目指す意向を示した。

日米首脳会談を前に、島崎久防衛副大臣が9日から訪米し、パネットタ国防官やカーター国防副長官と米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設問題や「日米防衛協力のための指針」（ガイドライン）の再改定について協議を始める予定だ。

また、森本敏防衛相も年内の訪米を検討。今年4月の日米外務・防衛担当閣僚会合（2プラス2）で、年末までに作成することで合意した嘉手納以南の米軍施設の土地返還計画などについて協議したい考えだ。